



支援便り



令和元年9月発行
第2号
串木野養護学校
支援部

2学期がスタートしました。地域の学校、幼稚園、保育所では運動会のシーズンではないでしょうか。本校は9～10月、働く生活に関する行事（現場実習や職場見学、職場体験など）や宿泊学習など集団宿泊に関する行事が予定されています。

そのような中で、支援部でも2学期の巡回相談が始まり（地域支援係）、「小学部・中学部の体験学習、高等部の学校見学会」の準備（就学支援係）が行われています。来年度に向けての取組が動き始めたのを感じる今日この頃です。

さて今回の支援部便りでは、1か月前に行われました「串木野養護学校夏季セミナー（串養セミナー）」についてお知らせします。

定員越えの「串養セミナー」！



7月26日に行われました「串養セミナー」、今年度は地域内外の小学校、中学校、高等学校、幼稚園・保育所、療育施設などから115人の参加がありました。

午前中は、鹿児島純心女子大学の釘田雅司先生を講師に「3つのキーワードから考える新しい時代の特別支援教育～自己肯定感、分かるということ、学ぶということ」の講演を頂きました。

自己肯定感（自尊感情）を高めることの大切さ、そのためには、子供たちの「よさ」は頑張っている姿そのものであることに子供本人や周りの人々が気付くこと、よさを伸ばす関わりがキーワードになるということを知ることができました。また、「本当に子供たちはこちらの教えていることが分かって（理解して）いるのか？」と問われる場面もあり、「改めて子供への接し方や指導の在り方を振り返り、見直す研修になりました。」の感想を多く頂いた講演でした。

自尊感情（self-esteem）とは、自己肯定感とも訳されることもあり、自分自身を価値あるものだと感じる感覚のことです。単に「人より優れている」という感覚とは異なり、できること、できないこと、全てを含んで自分がかけがえのない存在だと感じることをいいます。

高い自尊感情を持っている人は、何事にも積極的に取り組み、豊かな体験を積み重ねていく中で、更に自信が付き、自分を受け入れ他者をも受け入れていくことができるようになります。

（講演資料からの抜粋です。）

午後は、地域の特別支援教育の関係者が集まって情報交換会を行いました。

参加者の中から、今年度開設された串木野中学校の通級指導教室と市来農芸高校の支援体制の取組事例を基に9グループで意見交換を行いました。

どのグループも活発な情報交換がなされ、あっという間の1時間でした。「日頃聞けない分野の方々の意見や課題を聞いてよかった。」「中学校や高校での実際の取組をすることができて参考になった。」「いろいろな立場の方と知り合いになれてよかった。」など、

ネットワーク作りにも役に立てたようです。

参加者のみなさん。ありがとうございました。



来年、またお会いしましょう。